

栗原の稲作通信

令和6年 第4号 令和6年6月24日発行

宮城県栗原農業改良普及センター
宮城県米づくり推進栗原地方本部
電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント○

1. 目標基数を確保したら、中干しを実施しましょう。
2. 水田内や畦畔の雑草防除を徹底し、斑点米カメムシ類の発生を抑えましょう。
3. 定期的にはほ場をまわり、いもち病の早期発見、早期防除に努めましょう。

1. 気象経過

○6月上旬（6/1～6/10）の気温では日最高気温は平年と比較して低くなりました。6/2～6/3にかけてまとまった雨となりましたが、6月上旬の降水量は平年と比較して少なくなりました。また、合計日照時間は平年を下回りました。

○6月中旬（6/11～6/20）の気温では日最高・最低ともに平年と比較して高く推移しました。6月中旬の降水量はなく、合計日照時間は平年を上回りました。

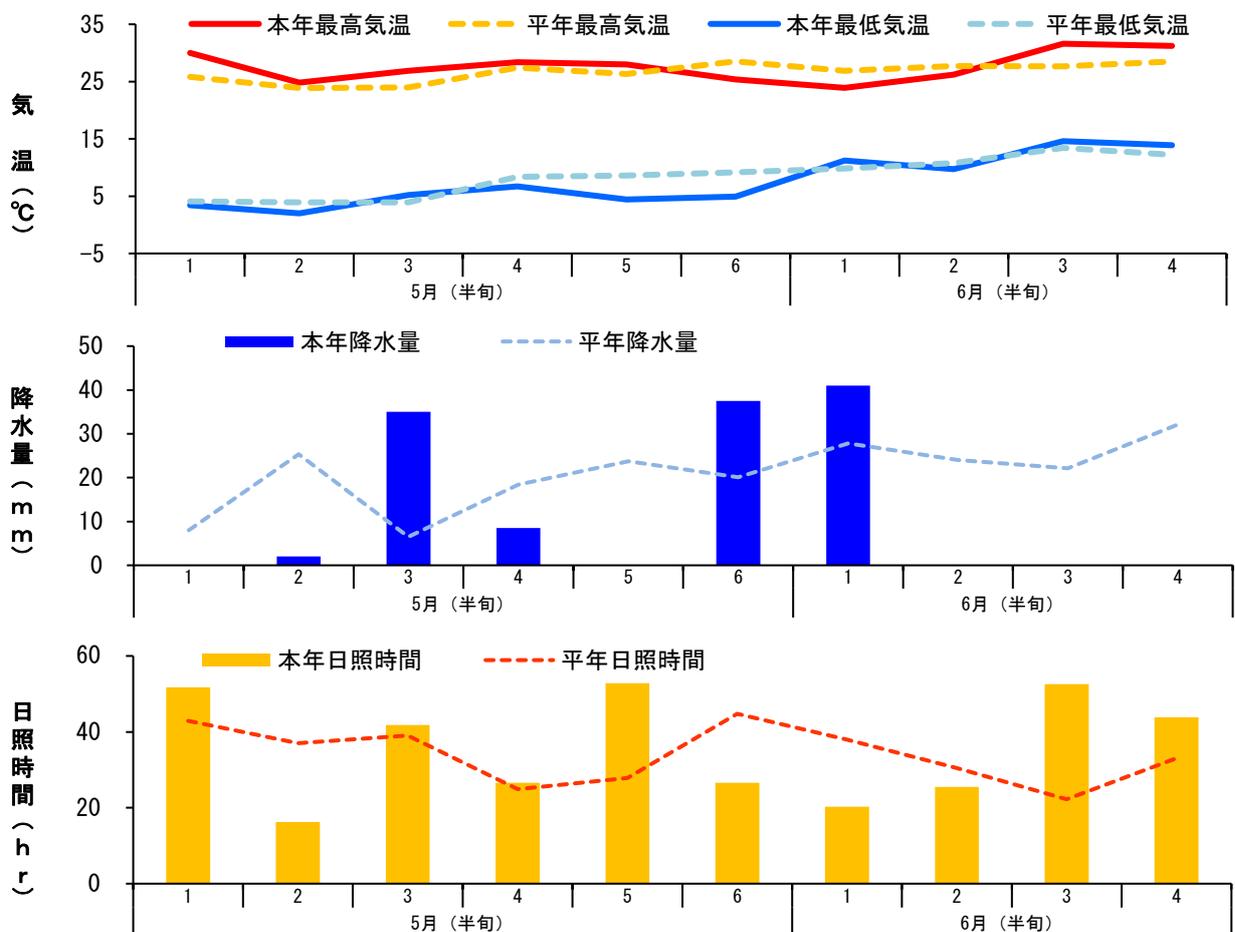


図1 4～6月の気象経過（築館アメダス） ※平年（点線）：令和元年～令和5年の平均値

2. 生育状況（6月20日現在）

1) 移植水稲

○ひとめぼれは、草丈が平年並みとなりましたが、茎数は平年並み～やや少なくなっています。葉数は平年並み～やや少なく、葉色は平年と比べてやや淡く推移しています（表1、ひとめぼれ）。

○6/10～20は平均気温が高く推移したことから、今回の調査（6/20）では前回の調査（6/10）に比べて茎数は平年比が小さくなり、葉数は平年差が小さくなりました。しかし、依然として平年値を下回っています（表1、ひとめぼれ）。

表1 6月20日 生育調査結果（移植水稲）

品 種 地 区	田 植 日			草 丈 (cm)			茎 数 (本/m ²)			葉 数 (枚)			葉 色 (GM値)		
	本年	前年差	平年差	本年	(前年比)	(平年比)	本年	(前年比)	(平年比)	本年	(前年差)	(平年差)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ 若柳	5/21	同日	1日遅	35.7	97	101	316	122	72	8.5	+0.8	+0.4	44.6	-1.9	-0.1
ひとめぼれ 一迫	5/10	2日早	1日早	36.9	82	102	285	108	100	7.4	-1.8	-1.3	40.9	-4.2	-1.9
ひとめぼれ 県平均	5/12	同日	同日	38.3	92	104	386	113	104	8.9	+0.2	+0.4	43.4	-1.6	+0.0
つや姫 築館	5/23	5日遅	1日遅	34.0	75	99	179	81	85	7.4	+0.2	-0.2	44.6	-0.6	+1.3
萌えみのり 金成	5/18	10日遅	6日遅	35.7	77	91	209	137	91	7.5	0.0	-0.7	45.8	-0.1	-0.4
だて正夢 古試	5/10	同日	同日	40.4	90	102	424	131	117	8.1	+0.0	+0.1	44.0	-2.1	-0.2
金のいぶき 古試	5/10	同日	—	34.9	91	—	542	140	—	7.9	-0.7	—	41.4	-3.6	—

注1：平年値は過去5年間（令和元～5年）の平均値。「ひとめぼれ一迫」は過去4年間（令和2～5年）の平均値。

注2：「つや姫 築館」は令和6年から栽植密度が変更されている（令和5年15.3株/m²、令和6年12.2株/m²）。

注3：「ひとめぼれ 県平均」は県内各普及センター及び古川農業試験場における18地点の生育調査結果の平均。

注4：「だて正夢」、「金のいぶき」は古川農業試験場の生育調査結果。

2) 乾田直播水稲

○生育は順調となっています。前年のひとめぼれに比べて、草丈が長く、茎数も多く、葉齢も多くなっています。

表2 6月20日 生育調査結果（直播水稲）

播種様式	品 種 地 区	播 種 日		草 丈 (cm)		茎 数 (本/m ²)		葉 数 (枚)		葉 色 (GM値)	
		本年	前年差	本年	前年比 (%)	本年	前年比 (%)	本年	前年差	本年	前年差
乾田直播 グレーンドリル 播種	つきあかり 志波姫	4月8日	5日早	42.1	137	361	162	8.1	+2.6	38.8	+1.7

注1：令和6年から品種を「つきあかり」に変更（令和5年は「ひとめぼれ」）。

注2：前年差・比は「ひとめぼれ」との参考比較。

3. 今後の栽培管理のポイント

1) 目標茎数を確保したら、中干しを実施しましょう。

- 中干しを実施することで、無効分げつの発生が抑えられることや、草姿が良くなり光合成能力が高まることで、登熟歩合を高めることができます。
- 分げつが平年より少なく推移しています。ほ場で茎数を数えて、目標茎数の確保を確認してから中干しを行いましょ。

表3 品種別目標茎数の目安

品種	㎡当たり目標茎数 (本/㎡)	1株当たり目標茎数(本/株)		
		50株植え	60株植え	70株植え
ひとめぼれ	410~460	27~30	23~25	19~22
ササニシキ	480~510	32~34	26~28	23~24
つや姫	400~440	26~29	22~24	19~21
だて正夢	350~400	—	19~22	17~19
金のいぶき	440~490	29~32	24~27	21~23

※参考値となりますので、中干しの判断はほ場全体の生育状況を見ながら行いましょう。

- 中干しの期間は7~10日間とし、田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく程度とします。遅くとも幼穂形成期の前には終了しましょう。
(昨年の管内生育調査ほひとめぼれの幼穂形成期：7月6日)

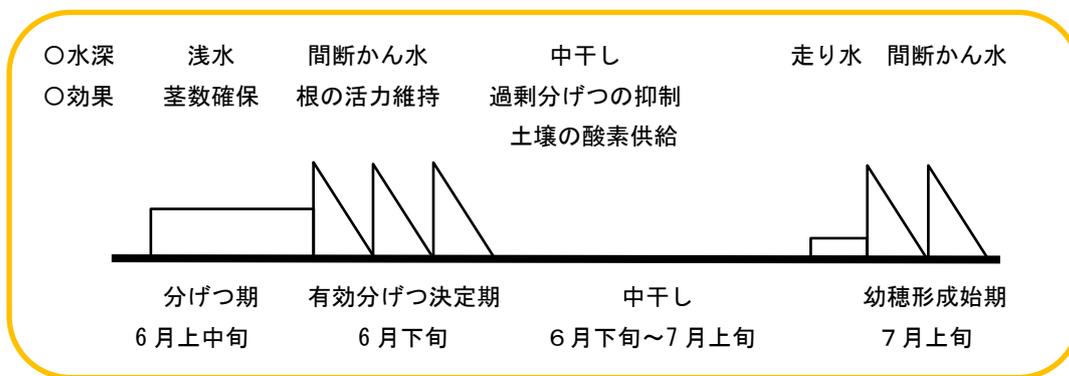


図2 今後の水管理体系

2) 水田内や畦畔の雑草防除を徹底し、斑点米カメムシ類の発生を抑えましょう。

- 畦畔や農道、雑草地、休耕田等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の増殖源となります。計画的な草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑えましょう。
 ※管内ではアカスジカスミカメの越冬世代の大半は6月中旬までに成虫となり、水田周辺のイネ科雑草に定着するとみられます。
- ノビエ、イヌホタルイ、シズイなどの雑草により、斑点米の原因となるアカスジカスミカメが、水田内で増殖して被害が助長されます。残草が目立つ場合は、中期・後期除草剤等により追加防除を実施しましょう。

3) 定期的にほ場をまわり、いもち病の早期発見、早期防除に努めましょう。

- 「金のいぶき」はいもち病に非常に弱い品種です。箱施用剤に加え水面施用剤による2回防除(6月中下旬及び7月中下旬)を必ず実施しましょう。
- 葉いもち感染好適条件は出現していませんが、今後の天候の推移に注意しましょう。
「BLASTAM」：<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>」

＜発生予報第3号 6月10日 宮城県病害虫防除所＞
◆葉いもち 発生時期「平年並(7/1～7/5)」 発生量「平年並」
◆イネドロオイムシ 発生量「少」

◎お知らせ！

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

■農作業中の熱中症に注意しましょう!!

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。熱中症死亡事故の約85%が7～8月に発生しています。熱中症は正しい知識を身に付けることで、適切に予防することが可能です。

予防のポイント

✓高温時の作業は避けましょう。

- ・農作業中の熱中症による死亡者数を年代別に見ると70代以上が約9割を占めています。高齢者の方は特に注意が必要となります。

✓単独作業は避けましょう。

- ・なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。

✓20分おきに休憩&水分補給を行いましょ。

- ・涼しい日陰などで作業着を脱ぎ、体温を下げましょ。のどがかわいていなくても、20分おきに毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給ましょ。

✓熱中症対策アイテムを活用ましょ。

- ・帽子や吸湿速乾性の衣服を着用することや、空調服や送風機、ウェアラブル端末などを活用し、熱中症リスク回避ましょ。